



www.fao.org

農業

主な動き

さまざまな予測によると、今後、人口や農業の伸びは鈍化するものの、食料生産の伸びは引き続き人口の伸びを上回るであろうとされています。

1人当たりの耕地面積は減少し続けています。1970年には0.38ヘクタールあったものが、2000年には0.23ヘクタールに減り、2050年までには0.15ヘクタールにまで減ると予想されています。

南アジアは耕作可能な土地の94パーセントを実際に耕しているのに対し、サハラ以南アフリカではその割合はわずか22パーセントです。

耕作地の8割では天水農業が行われています。灌漑農業は残りの2割で行われ、世界の農作物の4割が生産されています。

保全農業による耕作地は1974年には300万ヘクタール弱でしたが、2008年には1億500万ヘクタールを超えました。

サハラ以南アフリカでは、自家用食料、市場向け食料生産の6割から8割を女性が担っています。

家畜の約32パーセントは今後20年以内に絶滅するおそれがあります。1990年以降、農作物の遺伝的多様性のおよそ75パーセントが失われています。

現在、世界の農作物の総産出高の約4割を家畜が占め、その割合は増え続けています。

世界的に見ると、禁止、期限切れ、不要の農薬およそ50万トン以上が、環境と人間の健康を脅かしているとされています。

農業で持続的な利益を目指す

FAO農業局は、増え続ける世界の人口を養うために、各国が農業で持続的な利益を得られるよう支援するとともに、自然環境を大切に、公共の健康を守り、社会の公正を実現するための後押しもしています。農業局は、食料生産の多角化、負担の大きい農作業の軽減、生産品の販売、天然資源の保護に関して、農家を支援します。

新しい技法を取り入れた食料生産

FAOは、持続可能で採算性のある農業と環境保護とを両立させるために、保全農業を推進しています。保全農業では無耕農業、直播栽培、集約輪作、土地を太陽や雨風から守るための恒常的な土壌被覆などの新たな技法を取り入れます。有機物が豊富に含まれる土壌は、干ばつに対する抵抗力が強まり、無機肥料も受け入れや

すくなります。生産の多角化と栄養物の土壌への還元のために家畜を取り入れる例も多く見られます。保全農業は、南北アメリカを中心に1億500万ヘクタール以上で実施され、アフリカ南部や南アジアでも拡大しています。保全農業は農家の規模を問わず、取り入れることができます。

農薬への依存を減らす

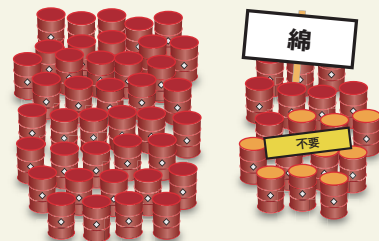
FAOは、化学農薬への依存を減らすために「総合的病害虫管理」の普及を図っています。現在までに、何百万人もの農民がこの手法の研修を受け、何千人もの農民が自ら教える立場になっています。各国は、多くの国際的な取り決めの下で、植物の健康や、農薬が人間や環境に与えるリスクの問題に取り組んでいます。こうした活動は、植物や植物生成物を脅かす病害虫のまん延を防ぐため、そして適切な農薬管理を奨励し、輸入国自身が禁止あるいは厳しく制限された特定化学物質の受け入れの可否を判断できるようにするためのものです。

手段の向上と市場の改善

開発途上国では、国土のおよそ3分の1—アフリカでは3分の2—が人力で耕されています。FAOは負担の大きい農作業の軽減、特に女性の農作業の負担軽減に努めています。食料生産に関連する作業の大半は女性に任されていますが、こうした女性たちが十分な作業手段を持っていることはまれです。FAOはエネルギー効率に優れた機具の普及も図っています。農家には、栽培した作物を販売し、相応の利益を得るための市場が必要です。FAOでは農家が栽培作物を多角化し、加工して販売することで収入を増やすことができるよう支援します。

アジアにおける農薬の年間使用量
(日本、近東、独立国家共同体諸国を除く)

有効成分量40万トン、56億米ドル



出所：FAO-EU IPM Programme for Cotton in Asia, 2004年



バングラデシュの畑で働く女性たち

©FAO/Giulio Napolitano

動植物の改良と保護

農家や畜産家は、生産物の品質改良や生産性の向上を遺伝資源に頼っています。植物の繁殖と健全な（strong）育苗活動による資源の保全と持続可能な使用は、農作物の生産を増やし、気候変動や食料需要の増加に対処するために大変重要です。遺伝資源が今後も利用できること、そして利用による恩恵を公平・公正に共有することは、食料安全保障に欠かせません。2001年に採択された「食料および農業に用いられる植物遺伝資源に関する国際条約」は、この分野の画期的な出来事といえます。FAOは遺伝資源に関する国際的な啓蒙活動、能力強化支援、遺伝資源の保存・使用に関する知識の共有に取り組んでいます。

家畜の需要は強く拡大しており、2020年までには世界の食料生産量の半分以上を家畜が占めると予測されます。FAOは、この需要に応えるために技術改良に取り組む国や、公共の健康と天然資源保護のために政策と基準を整備する国を支援しています。

世界では、人間の健康も脅かす最も深刻な家畜疾病の予防、封じ込め、抑制、根絶に向けた闘いをしており、FAOの「越境性動植物病害虫緊急予防システム」（EMPRES）はその最前線に立っています。EMPRESは新たに発生す

る疾病を注意深く監視するほか、家畜疾病と闘う力を強化するために活動しています。疾病を発生源で抑え、まん延を防ぐのがEMPRESの戦略です。疾病が発生した際には緊急対策チームを派遣し、獣医その他の技術支援を行います。越境性の家畜疾病はさまざまな要因が絡んでおり、協調的なアプローチが必要です。FAOは世界保健機関（WHO）、国際獣疫事務局（OIE）と共同イニシアティブを立ち上げ、鳥インフルエンザ、リフトバレー熱、アフリカ豚コレラ、口蹄病、小反すう動物病、その他の家畜疾病の発生の際にはその効果を発揮しました。

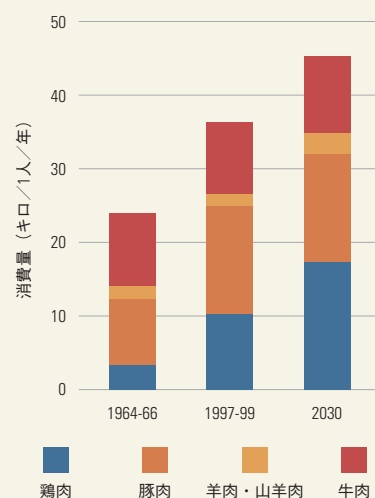
EMPRESの植物衛生部門は当初砂漠バッタに注目していました。砂漠バッタは大群で素早く動く移動性の害虫で、行く手にある穀物を破壊していきます。しかし、アジアやアフリカの広い地域では別の種類のバッタが深刻な脅威となっています。現在、FAOは砂漠バッタの抑制に成功したモデルを用い、これらのバッタに立ち向かっています。植物にとってもう1つの越境性の脅威である新種の強毒性小麦黒さび病の監視にも同様のシステムを利用しています。このほか環境保全型の抑制技術の普及も図っています。植物に対するこうした脅威に世界が強く立ち向かうためには国際協力が重要です。



©FAO/Johan Spanner

食肉に対する世界の需要は尽きることがありません。

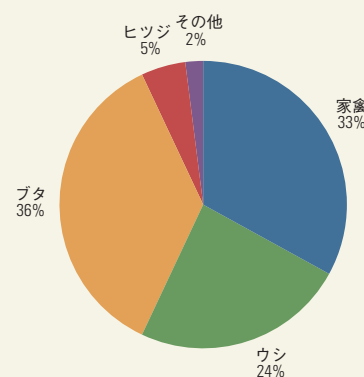
世界の1人当たりの平均食肉消費量
(1964～1966年から2030年まで)



世界の食肉需要の高まりに合わせ、
家畜生産量が伸びています。

出所：FAO

世界の食肉供給源（2007年）



出所：FAO貿易・市場部門（Trade and Markets Division）

